

令和6年2月29日



# 学校だより 3月号

横浜市立瀬谷さくら小学校  
校長 場家 誠

学校教育目標 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」

(知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。

(徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。

(体) 自分や人の命を大切にする子に育てます。

(公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。

(開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

## 「感謝」の気持ちを言葉に

校長 場家 誠

2月22日に6年生は、保護者をお招きし、これまでの感謝を伝える会「We can do it!!」を開催しました。午前中、私が準備の様子を見に行った際、最初に目に飛び込んできたのは、たくさんの「感謝」の文字でした。子どもたち一人一人が、これまでお世話になった方々のことを思い浮かべながら一生懸命に書き上げた習字の作品が体育館の壁面に飾られてあったのです。当日、ご覧になられた保護者の皆さんは、文字数はたった2つでも、その2文字の言葉から、きっと我が子のおおなる成長を感じられたことでしょう。



また、体育館後方には「未来のわたし」と題した図工の作品が展示されていました。どの作品からも、子どもたちが思い描く夢や希望といったものが感じられ、見ているだけで、私も明るい気持ちになりました。保護者の皆さんも、我が子の将来が少し具体的に想像できて、笑顔になられたのではないのでしょうか。

さらに、総合的な学習の時間に取り組んできたことの発表や合奏、そして将来を語るスピーチとどれをとっても、子どもたちのがんばりや想いがしっかり伝わったのではないかと思います。

かつて、私の尊敬する先輩の先生から、「支えてくれた家族への感謝、一緒にいてくれた友だちへの感謝、がんばった自分への感謝、感謝の気持ちが多ければ多いほど『このままの自分でいいんだよ』という『自分らしさ』の土台が頑丈になっていく。」という話を聞いたことがあります。6年生には、卒業までの間に、できるだけたくさんの人と、そして自分自身に対して「感謝」の気持ちを言葉にして伝えてほしいと思います。そして、今の自分に自信をもち、胸を張って卒業式に参加してくれることを願っています。

さて、私の方はというと、4月に新任校長として着任してもうすぐ1年が過ぎます。着任当初も今も、「自分が校長で大丈夫か。」という不安な気持ちはありますが、あたたかく支えてくださった保護者や地域の皆様、いつも一生懸命な職員、そして人懐っこく愛らしい子どもたちのおかげで「校長になってよかった。」と実感することの多い1年でした。これまで支えてきてくださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

4月の学校だよりにも書いた「子どもたちが毎日『期待して登校し、熱中して学び、満足して帰る』学校」の実現に向け、これからも感謝の気持ちを忘れず、「ありがとうございます。」をたくさん伝えながら歩んでいきたいと思っています。今後とも、瀬谷さくら小学校へのご支援をよろしくお願いいたします。